

国際都市つくばを考える懇話会 第2回会議 議事録

I 日 時 平成28年3月30日(水) 午前10時00分から午前11時30分まで

II 場 所 つくば市役所6階全員協議会室

III 出席者 石濱 光輝, 岩間 文人, 大島 慎子, 金 ヨンヒ,

(敬称略) 清瀬 一浩(小林 仁 代理), 栗原 正治,

クロフォード・シェイニー(半田 ジョアン代理), 小玉 喜三郎,

齊藤 悠介(吉田 真吾代理), 田村 実枝子, 塚本 洋二,

布浦 万代, ベントン・キャロライン, 星名 大介,

マリニャック・ブノワ 以上15名

〈事務局〉企画・国際課長, 課長補佐, 係長, 主査, 主任

IV 内容

1 開会

2 議事

(1) 新基本指針の体系及び見直しの方向性について

新基本指針の理念, 基本施策及び個別施策について

○事務局 資料のとおり説明した

(2) 各基本施策に係る主な取組について

※協議の中で, (1)の議事と一緒に検討し, 委員の意見を伺った。

- 委員 基本施策1と2は分かりやすいが, 3の「グローバルな魅力を発揮し, 人々が集うまち」のコンセプトの具体的な意味が分かりづらいのではないかと思います。例えば, 3の「グローバルMICEの誘致推進」や「企業の海外進出支援」はどちらかというと, 施策2の「世界とつながり連携するまち」に入るのではないかと。つまり, 「グローバルな魅力を発揮する」というコンセプトの共通理解がないので, 主な取組

と合っていないような気がする。したがって、この「グローバルな魅力を発揮する」が具体的に何なのかをはっきりさせた方が分かりやすいのではないか。

- 座長 私もこれを見て分かりにくいと思った。現行指針についても資料の2ページ目の表を見てごちゃごちゃしているなど感じた。何が問題なのかを考えると、基本施策の1～3が誰を相手に考えているのかが分かりにくい。

基本施策1は、市内の人が対象かなというのが想像つく。

基本施策2も市外対象ということで、外から来るとか、外に出るといったことかなと。

基本施策3はM I C Eが出てくるから少し分かりづらい。この「グローバルな魅力を発揮し、人々が集うまち」の当事者はだれなのか。事務局に説明願う。

- 事務局 基本施策3については、9ページの一番下に入れている。つくば市は何と言っても科学技術がアピールできる部分である。それ以外でも教育や環境といった部分が世界に通用する部分だということで、それを発信し、国内外から人を呼び込むようなつくばの実現を目指すといった中身である。誰を対象にするかについては市民を対象ではなく、世界に向かって魅力を発信していきたいといった趣旨である。

- 座長 その魅力というのは、受け入れを含めて、グローバルなインフラが整備されている、といったイメージか。

- 事務局 インフラというのでは…

○ 座長 ハードもソフトもということか。教育とか環境もあるから。そうすると基本施策1とは違う。関連はするが直接ではない。これはどこの部署か。市民部ではない。環境整備とか、多言語化の環境を整えていくという話だと違ってくるが…

○ 委員 基本施策1は、研究学園都市に海外の方が来たり、市民が異文化を受け入れて交流するのが、グローバルな相互理解となると私は理解している。研究学園都市で、世界水準のものがあるからつくばにきてほしいというのが基本施策3なのか、という根幹は同じなのではないかを感じる。

基本施策2の世界とのつながりは分かる。つくば市民がもっと世界に出ていく、また姉妹都市提携を行う、それから世界からMICEとか旅行者が来るとか、つながりと連携するようなイメージを持つことができると思う。

基本施策3は、日本人と海外の人が集うのであれば、基本施策1とそう変わらないのではないかと感じてしまう。

○ 委員 同じように分かりにくいと思った。事務局の説明を聞いて、3はプレゼンスを発信する、ということか。でも、企業の海外進出支援というのは企業がつくばに来てほしいという誘致のことか？

○ 座長 主な取組から基本施策を整理しようとするすると混乱する、逆に主な取組は後で入れ替えができるという理解で、基本施策の1から3を整理していった方が良い。

- 委員 私がさっき言っていたところは、基本施策2のところに入るような気がする。基本施策3は、さっきの事務局の話から、魅力を発信することかと思ったが違うか。

- 座長 基本施策3は当然発信することだと思うが、どういう内容を発信するのか。

- 事務局 G7の開催でつくばに注目が集まっているので、それに合わせて、新たなプロモーション戦略ということで、海外から新たな人材や企業を呼び込みたい。単なるプロモーションではなくて、色々な人達にそういうことを直接的に促せる施策ということで上げさせていただいた。

- 座長 今、基本施策3が分かりにくいという指摘はあったが、他のところにはないか。例えば、基本施策2の1の「地域コミュニティの活性化」というのは、基本施策2の「世界とつながり連携するまち」でなくて基本施策1のような気がする。
誰が相手なのかということを考えていくと、主な取組を再整理できる気がする。そういった観点で見えていただきたいと思うがいかがか。

- 委員 基本施策を整理して、1は相互理解で、2は海外との連携、国内との連携でもいいと思うが、3が発信だけなら分かりやすいと思う。この1から3があって、その結果、理念の「世界が集い、世界に羽ばたくまちの創造」につながる。だから、基本施策3に「人が集う」と入ると分かりにくい気がする。基本施策3については、「集うこと」が重要なのか。そこが分かりにくい。

- 事務局 つくば市国際化基本指針の根幹となる、つくば市未来構想の目標は、「住んでみたい 住み続けたい まち つくば」である。少しでも国際化・グローバル化の観点からつくば市の未来像が描けるような指針にしたいということで、1のグローバルな相互理解、2のつながり、3の魅力の発信ということを基本施策として、最終的にはその結果として、もっとつくばに人や企業が集まってくるというようなものになっている。基本施策3は、発信で終わってしまうのではなく、その結果、人が集まるということを考えて入れている。

- 委員 基本施策3の主な取組を見ると、MICE、インバウンド、企業の海外進出、そして「人を呼び込みつくばの発展につなげる」、「グローバルな魅力を発揮し、人々が集うまち」ということで、私は、取組から施策へ見ていくと違和感はないと思う。そして、「住んでみたい 住み続けたい まち つくば」につながるということで何の問題もないと思う。

- 座長 基本施策1から3は大きな目標・理念を実現するための方向軸だとすると、相互に関連するが、ダブると以前と同じような混乱を生じる。だから、どういう風に分かれているのかが、この懇話会ですぐに分かるようでないと市民はもっと分からないと思う。言葉を整理して、基本施策1、2、3の違いが分かるようにしないといけない。そしてその言葉はこの理念の中にすべて入っていないといけない。
例えば、「世界が集い」という言葉があるのなら、基本施策3の「人々が集う」というのが同じものなのか。「世界が集うまち」とするとか。また、「世界に羽ばたく」というのが、基本施策2の「世界

とつながり連携するまち」と一緒なのであれば、連携というのは誰と連携するのか、「世界とつながり羽ばたくまち」であれば、3分の1をカバーすることができる。1も大事だがこれが基本理念に入っているのか、という安心感がほしい。カテゴリーは必要だが、内容がダブってるのはよくない。言葉の整理が少し必要だと思う。それは言葉上のことで、中身は取組だが、このような仕分けで、基本施策が1から3にうまく分けられているのか。色々意見はでたが、ほかの意見もあればぜひお願いしたい。

例えば、基本施策2にある「ネットワーク化の促進」というのは、基本施策が「世界とつながり連携するまち」とあるので、海外と連携するのかと思ったら、取組の中身は「地域の～」とあるので「あれ？」と思ってしまう。割とこういう感じかなと思う。その辺がいくつかだけでも混ぜると全体が分かりづらくなってしまう。

- 委員 3-(1)-②「国際的教育プログラムの充実」というのは、1-(2)の育成に入るのではないかと思った。座長がさっき言っていたが、ダブっている。
- 座長 「国際的教育プログラムの充実」自体も分かりづらいな。これは上の方にもあってダブってる。これはどういうことか。
- 事務局 本文が入っていないため分かりづらいと思うが、1-(2)「国際社会への適応能力の育成」は、日本人市民への教育という意味で、3-(1)-②「国際的教育プログラムの充実」というのは、国際バカロレア等、外国人を対象とした教育プログラムが充実している、という意味である。

- 座長 上は日本人市民の国際化，下はむしろ市民に限らず，市外から人を呼び込むための環境があるということによいか。

- 委員 基本施策1に相互理解と書いてある。これは外国人と市民両方向ではないのか。つくばに住んでいる日本人と外国人，あるいは会議等で訪れた外国人との間の相互理解と私は思っているが。

- 座長 そういった理解で良いか。

- 事務局 その通りである。相互理解は，多文化共生社会の実現というのを念頭においている。つくば市においても，日本人の中には外国人が相手となると，言葉の問題で少し尻込みしてしまうところがあるので，そういった市民の方にも異文化を理解してもらうような施策を展開していきたい，多文化共生社会形成のために，日本人市民への異文化理解をしていきたいということで，このように入れている。

- 委員 日本人と書くのはまずいのか。ここに「市民の国際社会への適応能力の育成」というのが明確に書かれていればいいのだが，私も，すべての人達の相互理解と認識しているので，突然「国際理解教育の充実」となったときに，誰を対象にしているかわからなくなるから明確にした方が良くと思う。この取組にある「国籍を超えた住民交流の推進」というのは，市民がということによいか。

- 事務局 その通りである。

- 委員 そうすると、(2)「国際社会への適応能力の育成」に、「市民の」と書いた方が良くもしいない。

- 委員 相互理解というと、外国人が日本人を理解する、という方向もあり得る。

- 座長 グローバルな相互理解というのは、非常に大きな言葉なので、むしろ前回のような「多様な文化に出会え、理解し合える地域社会の創造」の方が分かりやすい気がする。「グローバルな相互理解」と言われると、当事者が分からない。でも地域の市民が対象だ、という意味で良いのか。

- 事務局 その通りである。

- 座長 後で整理してもらえば良い。基本施策2はどっちかという外向きの、対外交流というもの。基本施策3は世界が集うまちということで、インフラが整備されているまちだ、ということがプロモートできるということで良いか。

- 委員 それで世界から人に来てもらうということか。

- 座長 だから、人が来れば、地域の人として生活しやすいし、世界との交流も広まるというような、3つの機能がそれぞれ独立して、誰が相手なのかを明確にすれば分かりやすくなる。この辺がすっきりしないと後が混乱してしまう。

ここができれば後はやりやすいと思う。前回も話したが、市民が

どこの位置づけで活動しているのか分かるようなマッピングがなされている基本指針でなければならない。

その点で意見はあるか。前回、MICEは、海外企業進出をするのかという意見が出たが、これはこのままでいいか、基本施策2に入るのか。また、教育環境については、外国人も日本人も大事だが、この位置づけで大丈夫か。

- 委員 主な取組にある「外国人住民等の能力活用」。このネットワーク化というのはICTかと思ったら、住んでいる人達が連携しましょうという意味である。普通、ネットワーク化というと、何となくICTでつなげようという感じかと思うが、これは住民が国籍を超えて連携していこうという意味のようだ。このネットワーク化の促進というのは、それでいいか？

- 事務局 その通りである。

- 委員 そうすると、1-(1)の「多文化共生社会の形成」と変わらないのではないかという印象を受ける。3-(2)「人を呼び込みつづの発展につなげる」というのは分かったが、MICEを誘致しようとする、日本企業が進出して情報発信しないとMICEが誘致できないのではないか。だから、取組優先で考えてしまうと、この基本施策3の「グローバルな魅力を発揮し、人々が集うまち」という中にある、MICEとか企業の海外進出は、基本施策2の「世界とつながり連携するまち」に入れてしまいたくなる。ここは、単に表現の問題なのかと考えた場合、これだけ見ると分かりづらいと思う。

- 座長 基本施策1から3の表現がもう少し整理されると、とても分かりやすいと思う。対象が誰なのかが分かれば良い。例えば、ネットワーク化の促進も、世界とのネットワークを言っているのか、市内のネットワークを言っているのか。確かに今の指摘のように分かりにくい。
 オールつくばのネットワークという意味は、だれを言っているのか。研究機関なのか市民なのか。それで対応も変わってくると思う。同じようなネットワークは基本施策1にもあるし、基本施策2にもあるが、そこは整理した方がよい。
 1-(2)-⑤の「海外との交流」が、基本施策2とどう違うか分からない。

- 事務局 「海外との交流」というのは、基本的に姉妹都市を通じた交流を意味している。現在、高校生が電子メールで交流するといった事業もしているが、そういった中で国際感覚を身に着けるということを主眼において、1-(2)に入れている。それは「世界とつながり連携するまち」とも言え、色々なところに関連しているため、なかなかカテゴリーが難しいとは感じている。

- 座長 海外との交流を通して国際感覚が醸成されるが、それは副産物であって、主たる目的は海外との交流だと思う。相手もあることだから。こちらから発信もしなくてはいけない。結果的に、その副産物が異文化への涵養となる。つまり、関連する当事者が誰なのかで違ってくる。

- 事務局 理念・基本施策・個別施策等あるが、何か良い表現があれば意見をいただきたい。より良い表現なり、見ただけでわかるような表現にしていきたいと思っている。

○ 座長 この場でなくてもメールでも。

○ 委員 理念である「世界が集い、世界に羽ばたくまちの創造」から、どうしたらこの理念を達成できるかという発想で考えてみた。

「世界が集い」の実現のためには、多文化共生社会形成にあるような相互理解や、日本人市民の国際理解教育、外国人市民に対する言語的なサポート、日本人・外国人市民同士の交流など、市内に長く住んでいる人を対象とした施策が必要と考えられる。

また、一時的に住む人や事業活動する人向けに、来てもらうための情報発信や、表示の多言語化や通訳・翻訳サービスの提供などの活動しやすい環境整備、日本人側のおもてなしの心の醸成など、そういった施策が必要と考えられる。

次に、「世界に羽ばたく」については、つくば市が外に出ていくということだと思うので、企業の海外進出支援、特につくばの強みを生かすうえではベンチャー企業の海外進出支援などが考えられる。。他には、現実的かどうかわからないが、つくばで作られている名産をブランド化して世界に売り込んでいくといった輸出支援なども必要と考えられるのではないかと。

やはり、基本施策は3つあった方が良いのかなと思う。「集い、羽ばたく」ということから考えると、長く住む人向けの施策、一時的に滞在する人や事業者向けの施策、つくばの強みを生かして外に出ていくことへの支援という3つの柱が考えられるのではないかと、漠然と考えた。

○ 座長 大変分かりやすい意見をいただいた。確かに基本理念にもうちよっ

と分かりやすい言葉を入れてもいいと。その他にいかがでしょうか。

- 委員 アイデアを伝えるために呼ばれたと思うので少し考えて来た。つくばの日常生活のために何かできないかなと思い、日本語に訳したものを紙にまとめて来た。

つくばにいる外国人と日本人が交流できる、「国際文化センター」を作ってはどうか。日本やつくばに来たばかりの外国人にとっては、一か所で様々なサービスやサポートをまとめて受けられる施設があれば、とても便利で助かると思う。この「国際文化センター」には、英語だけでなく、それ以外の多言語に対応できるスタッフをおき、様々な国の人たちからの問い合わせに対応する。

この「国際文化センター」の設備としては、会議室やステージ、パーティーや懇親会用のスペースを備える。そして年に2回程度、つくばに来たばかりの外国人を対象にした、「ウェルカムパーティ」を開く。この「ウェルカムパーティ」では、最初にオリエンテーションの時間をとり、日本やつくばでの生活全般に関する情報を分かりやすく説明する。

そのセンターでは、外国人向けの日本語教室も開設し、その教師は日本語教育能力検定試験に合格した人に限定して、本格的な質の高い日本語教育を担保する。日本人にとっては、この「国際文化センター」は、つくばにいる外国人とのふれあいの場になる。外国の人から、日本人向けに、外国語レッスンや、各国料理のクッキングレッスン、外国文化の紹介、外国映画の上映ができるようにする。このような機能を備えた施設はまだつくばにないと思う。きつとつくばにいる外国人にとっては、とても助かる施設になると思うし、またつくばの日本人にとっても、とても良い刺激を得られる場所になると思う。ぜひ検

討いたきたい。

- 座長 すばらしい。私も同じことを考えていた。どこか拠点がほしいと考えている。つくばはこんなに姉妹都市とかやっているが、市役所にきても、それぞれの国の国旗や衣装が置いてあるような場所がない。

- 委員 私は昔、古民家で外国語を交流センターで教えていたことがある。小さなセンターだったが、日本人が来てくれて勉強になったと思う。日本人はグローバルとか国際とか好きだから、国際古民家があってもよい。日本にいる外国人が世界への窓口になれば良いと思う。

- 座長 そうすると、このカテゴリーは基本施策の1や3に入る。こういうセンターがあるということだから。

- 委員 ただいまの話は30年前から思っていたことの1つである。今言われたようなことは、タコ足的に色々なところでやっている。ウェルカムパーティも、私達は30年前からやっているが、やはりこういうセンターができると、つくばでやっていることが、一括していろんなことがみえてくる。海外の人、日本人との交流が明確にできるのではないか。
 今つくばには、色々な外国人支援をしているボランティアが300近くある。つくばに来て手続きをしたあと、あっちへ行き、こっちへ行きで分かりにくいことが非常に多い。私達のところにも相当問合せがあつて、つくばのどこに行ったらいいか案内するが、多分外国の人にとっては理解できないのだと思う。だから、「国際文化センター」のようなものができると良いなと非常に思う。これは建設費用とか大変なことはたくさんあると思うが、でもつくばにあつておかしくないも

のだと思う。

- 座長 「国際文化センター」は、つくば市の売りの1つになると思う。大学はどうか。グローバルコモンズはセンター化されているが、留学生が、市民との交流とか大学にやって欲しいことというのはあるのだろうか。

- 委員 留学生は多い。何年か前は1,000人ちょっとだったが、去年は、短期滞在もすべて入れると、述べ3,300人になった。彼らの多くはやはり日本のことが好きなので来ている。市民との交流を望んでいる人が多い。来たばかりの人が多いのは10月がピーク。研究者の家族が、大学院生であれば家族も一緒に来る人が多いので、家族が孤独になるケースもある。

- 委員 基本施策3の「グローバルな魅力を発揮し、人々が集うまち」の(2)「人を呼び込みつくばの発展につなげる」の、MICE誘致やインバウンドはこれに含まれると思うのだが、企業の海外進出支援とかは、むしろ2-(2)「未来を見すえた施策の推進」に含まれるような気がする。人を呼び込むと送り出すは違うのかと。

- 委員 私も最初はそう思って、そのような発言をしたが、よく考えたらMICEは国際会議とか、要するに海外企業に展示会を開催してもらう、または出展してもらうには、日本の企業が進出していかなないとなかなか呼び込めないと考えて、そのような表現になったのかと思ったが、市民には分かりにくい。確かに海外進出支援というのは、世界とのつながりのほうだと最初はそう思ったが、座長が言った通り、分かりや

すく書き直せばよいことなのかなと思う。

○ 座長 結果的に副産物としてみれば、色々なことが関連しているが、誰を相手にしてるのかを考えると、グローバルMICEの誘致の場合、相手は外国である。だから市内向けではない。だれが当事者なのかを考えると、むしろ世界に羽ばたくでも良いのかなと。だけど、プロモーションという意味で考えると、基本施策3でも良いのかなと思うし。確かにそれぞれみんなまたがるが、主な目的で分けるとどこかな、というのはある。他にご意見ありますか。この後、個別の取組についても説明があるのか…

○ 事務局 色々な意見の中で、新たな案をいただいたが、まず理念を実現するための基本施策について、こういった形で良いのか、それか、少しこれを、先程の意見のように、基本施策2「世界とつながり連携するまち」を例えば、理念とからめて「世界とつながり羽ばたくまち」という風にするとか、基本施策3については、「グローバルな魅力を発揮し、世界が集うまち」とすると、もう少し分かりやすい形になるのかといったことを、この3つ、3つが適当だと思うが、基本施策について、こういった施策の書き方が良いかというのをある程度固めたい。

○ 座長 それは事務局に任せるとして…

○ 事務局 新しい意見も出ているので…

○ 座長 分かりやすく、というのはある。分かりやすい切り口の1つとしては、誰が相手なのかということを視野にいれながら考えると分かりや

すくなる。基本施策1は、どちらかという日本人・在住外国人を含めた市民、基本施策2は対外的ということで、基本施策3はそれらをプロモーションというか、市民にとっても受け入れられるというまちづくりができていることをプロモーションするような区分けだと分かりやすいと思う。

それと対応して、主な取組のタイトル自体も分かりにくい。これは変えられないかもしれないけど、ちょっと整理できるかなと思う。一番大事なところで、この座標軸がダブってしまうと、後が最後まで混沌としてしまうので、ぜひ意見をいただきたい。

- 委員 姉妹都市にカナダはある？カナダはない？昔は市議のジョン・ヘイズさんがいたときはカナダと交流してなかったですか。間違いかな。

- 座長 今姉妹都市は。

- 事務局 アメリカには、東海岸にあるマサチューセッツ州ケンブリッジ市、西海岸の方だとカリフォルニア州で北の方にあるミルピタス市、ロサンゼルス市周辺のアーバイン市の3つがある。そして、フランスにグルノーブル市。この4つが姉妹都市となっている。

- 委員 どんな交流をこれからするのか。ヨーロッパは、昔から姉妹都市を、多分100年くらい前からやってるので、別に姉妹都市があるからといって国際的という感じではない。でも日本は島国だから、姉妹都市でも地球の反対側にある都市とどうやって交流をするのかと思う。例えば、つくばフェスティバルのときに、グルノーブルだったら劇団を呼ぶとか。何かあったらいいなと思っている。

- 事務局 10年以上になるが、前は実際に訪問団を派遣するなど、人の交流があったが、近頃は、財政的な事情もあり、人の行き来が難しい。例えばどこか行くにしても、それぞれいくつかある姉妹都市のうち1年度につき1つの都市に行くというのがかろうじて今行っている状況である。

実際に行っている市民同士の交流としては、学生同士がメールで交流してお互いの文化を理解したり、フランスについては、つくば市内で行われている映画祭の優勝作品をグルノーブル市の同じような映画祭に送って日本文化を伝える、とか、グルノーブル市が主催している、アマチュア音楽家によるイベントに、つくば市民に参加してもらったりしている。そういった交流を現在は行っている。今後の新しい交流というのも我々も模索しているところなので、何かアイデアがあれば委員さんの方からもいただければと思っている。

- 座長 今のはどこのカテゴリーに入るか。

- 事務局 1-(2)-⑤「海外との交流」に含まれる。

- 委員 基本施策2ではないか。

- 座長 海外との交流という言葉はいいが、基本施策1に入っている理由は何か。国際感覚の涵養というのは、ほんの一部のような感じがする。主な目的はネットワークではないか。このネットワークは海外とではないみたいだが、むしろ海外とのネットワークの促進でないか？

- 事務局 皆さんの意見を聞く中で、その通りだなと思った。

○ 座長 多分、枠組みはできている。そういう意味では、何をやるのかを活発化する必要がある。部分的にはつくば市国際交流協会でも参加してやっているが、もっともっと活発化できると思う。

○ 委員 青森のねぶたは、最初はすごく喜んでしたが、毎年だと飽きてきた。姉妹都市から何か来たらいいなと思っている。

○ 座長 今年は一部実現するかもしれない。国というよりは姉妹都市だから参加してもらいたいと思う。

○ 委員 姉妹都市関連で、私は、アーバイン、ミルピタスそしてケンブリッジに、合わせて7回くらい市民訪問団として市の方たちと渡航した。

先ほど事務局から経済的云々という話があったが、当時は、市民に呼びかけて、人選するほど多くの人たちが姉妹都市訪問を希望していた。それは、全部自費で行っていた。非常に深い交流をしていた。未だに続いている方達もいる。その当時は、若い高校生達も社会人になってもまだつながりがあるというような人的交流が非常に盛んだっただけで、最近では企業とか研究とかの交流に絞られてきているように思う。

それをつくばの魅力の1つだと思うが、人的交流があっただけで始めて交流が深まるという部分がある。今はそこがないので、私はもったいなと思う。経済的云々はおそらく考えられない。皆さん自費で行っていたし、応募者が多かった。だから、高校生たちがメールで交流するよりもフェイス・トゥ・フェイスの方が交流が深まるし長続きすると思う。そんな人材の育成というのは重要だと思う。顔の見えてこない交流はちょっと、ここずっと考えてきたことの1つである。

- 委員 細かい取組の話もやりますか。

- 座長 いや…？。

- 委員 例えば、インバウンド政策の推進と新しく入っていますが、28 ページには、商業施設内における案内板のことしか書いてない。外国語の対応ができる人材の育成とか、色んな施策をここに入れてくというのはどうなのか。インバウンド施策はたくさんあるので、この表現だけだとサインのことしか書いていない。サインよりどちらかというとな材の育成の方が大事かなと私は思っている。表現の仕方がどうかなと思ってしまふ。

- 委員 今の意見に賛成。インバウンド政策といったら観光資源を情報発信して、外国から人を呼び込むことが政策なので、案内板だけだと…。まあここはまたご意見いただければいいと思うが。あと違うところで一つ気がついたのだが、8 ページ、7 ページの下から、つくばインターナショナルスクールがバカロレアを取得して…、筑波大学においては…と書いてある。そしてこれは他市では類を見ない事例でありと書いてあるが、これはそうではないと思う。日本に大学は 800 くらいあるが、国際バカロレア資格を受験資格として認定していない大学は、今はないのでないか、と思う。またバカロレア認定校は日本にはすでに 40 くらいある。東京など大都市に多い。だから、他市では…、という認識は間違っているかもしれない。他市でもやっているところはある。これも一つの魅力であるという認識でないと、ミスリードしてしまうと思うのでそれだけ申し上げておく。

- 事務局 その点について、T I Sについて北関東には、というよりここより北にはこういった学校はないわけで。北関東ということで…

- 委員 茨城キリ（茨城キリスト教大学）も、本学も、国際バカロレアの受験資格を認めており、県内の大学はすべて大丈夫のはずである。茨城県でというと、開智学園もあるので、他市にはないと断定するのは危ない。（つくば市内に国際バカロレア校と筑波大学で完結するという考え方の場合、国立大学は簡単には入れないので、やはりこの表現は疑問）

- 座長 「個別施策」のことも、「主な取組」のことも議論していきましょう。

- 委員 1-（1）-④「学校のグローバル化対応能力の強化」というところについて。つくばは昔から学校に外国人が多いと言われていて、公立の小中学校では外国人児童・生徒への対応が色々すすめられていると思うが、その上の高校学校における支援とか、外国人受入れ枠を増やすとか、そういったことがまだだと思っている。そういったことを入れていきたい。

- 座長 重要なポイントだと思うが、3ページのどこか。サポートの充実か。つくばが、外国人に対してもアピールできる教育環境というのがあるとは思う。

- 委員 教育環境とか語学能力の充実とかあると思う。バカロレア以外のところも拡充していった方がよい。

- 座長 どこかに書いてあるのか。特に日本語のサポートというのは、小中学生を対象にボランティアが活動していると聞いているが。

- 委員 日本語指導が必要なこどもについては、教員が配置されている。教員が指導に当たって、さらにボランティアと連携して行っている。小中学校は充実している。高等教育への支援もある程度期間があれば、できているのではないかと考えている。そのことも中に書いていただければ良いかも知れない。教育日本一の文言が後のページにでている。国際的教育プログラムというところの 27 ページ②に。さらには、「教育日本一」とともに、充実したつくばの国際化教育を世界に発信していくというところで、国際的教育プログラムであるのか、国際化の教育なのか、というところをもう少し明確に記載した方が良いと思う。

- 委員 国際化教育プログラムはちょっと違うのでは。国際的にも互換性のあるプログラムとか。特に日本の初・中等教育は世界トップクラスである。

- 座長 ページでいうと何ページか。グローバル都市としてのインフラ整備とか、日本語サポートが、安心してここで生活できるということにつながっていく。小中学校では体系的にやられているが、中学校から高校に行くときもシームレスにやっていく必要があるのではないかと思う。そのような取組がどこでなされているのかを書いてあるところがあったと思うが。

- 座長 ご指摘の点は、グローバルなということだけでなく、日本語を使って、日本の学校に進学するという意味だと思う。だからちょっと違う。

○ 委員 市内の小学校で、学校の理念、大きな教育目標が、「世界へ羽ばたく児童生徒の育成」というところがあり、基本指針の理念と似ていると感じた。

主な取組の中に、1-(1)-④「学校のグローバル化対応能力の強化」があり、それからその下に、「国際理解教育の充実」というのがある。これはどういうことなのか。上の方は学校の組織の強化ということで良いのか。それから下の方は人材育成と捉えれば良いのか。できればその国際理解教育の充実という取組の中に、人と関わる力の育成、コミュニケーション能力の育成であるとか、互いを認め合う心の育成とか、国際理解教育というすべては網羅されているとは思いますが、そのような言葉が入ると、具体的で分かりやすいと思う。

○ 座長 あまり時間がなくなってきたが、これまで様々な意見が出た。ある程度整理して、各項目において、言葉が短いから誤解を招いてしまっているところについてはもう少し追加した方がよい。それを含めて、ある程度全体の枠組みは理解してもらえただろうか。

○ 事務局 どうしても短くまとめてしまうので、もう少し具体的に何をするのか、この体系を見ただけでわかるようにまとめさせていただきたい。

○ 座長 市民の皆さんが、この3ページを、グローバルという切り口で見たときに、わかるようにことばも追加したり、ワードを統一したりした方がよい。やり方はメールで良いか。

○ 事務局 取り急ぎまとめてメールし、後で印刷したものを郵送する。

- 委員 27 ページ, 28 ページだが, 海外の企業とか研究所の誘致はどこに入るのか。
- 事務局 グローバルM I C E の誘致推進である。
- 委員 M I C E の枠組みで企業を誘致するのか。
- 座長 企業は誘致しないと思う。これはイベントだから。M I C E は注釈をつけると一般の方にも分かりやすいかも知れない。ミーティングとかインセンティブとか
- 委員 コングレス (Congress または Convention) とエキシビジョン。
- 副座長 ということは, 国際会議とか。
- 座長 今, 一種の会議観光みたいなのが流行っている。インターナショナルな学会を誘致するとか, そういう内容だと思う。
- 副座長 医学部とか医学のコンベンションだと 1 万人とか数千人規模が集まる。
- 委員 前回, 私は, グローバルM I C E を誘致するには, つくば市はホテルが少なすぎると言った。これの対応はなかなか難しいから, 何とかしないと推進は難しいと思う。

- 座長 グローバルMICEの推進は、基本施策2でやるのだけれども、基本施策3で受け皿を整備するというにすると良いと思う。
- 委員 MICEは企業誘致でない。この中にもないということか。
- 委員 国内外からの人材や企業の投資を促進すると書いてある。
- 座長 そもそもMICEの誘致は日本語になっていない。
- 委員 同感だが観光庁がその表現を使っている。
- 座長 つまり、観光庁がやっているのだから、投資の促進はむしろ基本施策2になるかな。
- 委員 そこをもっと明確に書いた方がよいかも。重要だと思うので。

以上

3 その他

- 事務局 次回の日程調整について、5月の連休明けをめどに、各委員の予定を把握し、座長と相談の上決定する旨を説明。

4 閉式